令和6年度 水道情報活用システム標準仕様審査委員会(第2回)

議事録(案)

令和6年度 水道情報活用システム標準仕様審査委員会(第2回) 次第

令和7年3月12日(水) 10:30~12:00

会議室: 水道技術研究センター第1会議室+Zoom

1. 挨拶

安藤理事長

石井委員長

経済産業省 商務情報政策局 情報産業課

国土交通省 国土交通省 水管理・国土保全局 水道事業課

独立行政法人 情報処理推進機構

研究会事務局

2. 出席状況・資料確認

○出席者(委員)

会場: 石井晴夫委員長、安部義博委員、永井卓真委員、本荘谷雄一委員、
小平鉄雄委員

リモート: 新誠一副委員長、生島康教委員、橋詰伸夫委員、坂牧行夫委員、
小林健太郎委員、森竜也委員、高井努委員、青柳伸一委員

○出席者(オブザーバー)

会場: 吉川様(国土交通省 水道事業課)
田中様、佐藤様(情報処理推進機構)

リモート: 木村様、山崎様(経済産業省 情報産業課)

3. 議事

凡例: ☆: 報告事項、●: 決定事項 or 今後の検討内容、➤: コメント等

3-1. 前回議事録の確認

☆ 資料1に基づき、審査委員会事務局が前回審査委員会議事録の説明を行った。

●特に意見はなく、前回議事録は承認された。

3-2. 改定要求書(CR)の審査

☆ 資料2～8に基づき、研究会事務局が標準仕様書改定案に関する説明を行った。

➤資料8のp.4にある監視制御システムについて、標準インターフェイスまたは標準汎用インターフェイスによる接続はすべてのベンダーで対応できるので、独自インターフェイスというものはないという理解でよろしいか。（生島委員）

➤ご認識の通りである。監視制御システムというのは標準インターフェイスか標準汎用インターフェイスを選べるということで、独自インターフェイスは元々選べない。仕様書の方で元々言及されていない。（研究会事務局）

➤どのメーカーでも対応できるということか。（生島委員）

➤その通りである。（研究会事務局）

➤資料8のp.3に、独自方式による接続の例をいくつか挙げていただいているが、例として概念的というか、標準仕様書に記載する内容として少し弱いように思われる。一つ目の例は「将来的な広域連携に向けたデータ共通基盤としてまずは導入したい」とあるが、これが原則を外す根拠となるのか。二つ目の「幅広くベンダーから提案を募ることで、調達上の競争を高めたい」というのは、普及促進はしているがなかなかベンダーも増えていないので、なんとなく理解できる。三つ目は「予算の限りがあるなか端緒として導入したい」というのも、言葉としての表現が微妙で原則を外す根拠になるのか。先ほどの説明の参考のところで、視察の段階で既存のレガシーシステムとの連携も考慮した運用のなかで接続方式が決定されるというものがあつた。そういうことであつたら独自インターフェイスでも仕方ないというのは理解できたので、例としてはこちらのほうが良い気がするかどうか。（生島委員）

➤パイロット的な視察調査というのは今月に入って実際に研究会で企画したものであり、時系列的にいうと、改定の検討が先にあつてその後で実際は後から分かつたというのが実態である。そういった意味でも個々の事情やケースを勘案する時は、「上記の他、個別の事情を総合的に判断する。」というところに繋がっていく。そういった個々のケースも含め、将来的な対応にもできるのではないかと整理できたということである。そういう意味でレガシーシステムも一例として事後的に分かつたものである。（研究会事務局）

➤そうすると、今回の改訂では入れず次回からになるのかもしれないが、こつちのほ

うがイメージとしては分かる。まずは導入したいとか端緒として導入したいとか、事業体の想いというかそれだけで入れるみたいな、それを例外的な根拠の例として標準仕様書に書くというのはどうなのだろうかと思う。（生島委員）

➤会員の皆様の各ご意見を反映させる形でのブラッシュアップは随時していきたいと思っている。研究会の部会、ワーキング、SIG等の方でご意見が多いようでしたら反映させていくというのも検討したい。（研究会事務局）

➤私は標準汎用インターフェイスのドキュメントを追加するときに大きく関わっている。ご説明頂いた内容とその目的は理解できた。その上で、編集上のコメントを述べさせていただくと、独自インターフェイスが特定のアプリケーション（監視制御アプリケーションを除く業務系アプリケーション）に限ったものであるならば、標準汎用インターフェイスの時と同様に基本仕様書の中に今現在のアプリケーションの種別名を添えて、「〇〇のときは」という書き方をするのではなく、基本仕様書の別冊13として新たに「独自インターフェイス仕様書」を起し、独自インターフェイスに関する特記事項をまとめたほうがよろしいのではないかと。そうすることによって将来的に修正・改定が発生した場合でも、独自インターフェイス上の問題は独自インターフェイス仕様書の中で、今まさに議論がされていたような個別の事例を差し込むことも容易になる。またユーザーにとっても分かりやすくなる。そして、将来的に独自インターフェイスを使用しなくても運用ができるようになったときは、独自インターフェイスであれ標準汎用インターフェイスであれ、その対象となる標準仕様書そのもの（まるごと一冊）を、番号単位で削除することによって他の仕様書をいじらなくて済む運用ができる。そういう意味でご検討されてはいかがかという提案です。また、なぜ標準インターフェイス仕様書に独自インターフェイスに限定的な細かな情報を入れてまで、標準インターフェイス仕様書で対応したいのか質問したい。（高井委員）

➤今回の改定にあたっては既存の標準仕様書12分冊の枠組みの中で検討が進んでいたというのが実態であり、新たに独自インターフェイスを含めた13分冊目を新設するというところには至っていなかった。実際に水道情報活用システムを利用する皆様にとってどの形がより分かりやすくお伝えできるのかということかと思うので、13分冊目として独立させるべきかどうか、新たな枠組みの在り方については持ち帰らせていただき、研究会内部で検討する。（研究会事務局）

➤もう一つ、セキュリティについて質問したい。独自インターフェイスには、アプリ

ケーションベンダー毎に複数の種類があると思う。今回、改定提案いただいた内容以外はすべて基本仕様書に準じたシステム設計またはアプリケーション設計がされるという理解だが、セキュリティ仕様書に本当に準じた形で、独自インターフェイスは現実問題として作成・運用できるのか懸念している。監視制御用の標準汎用インターフェイスを採用する際は、セキュリティ仕様への対応について結構議論した。標準汎用インターフェイスの場合は、あくまでベンダー独自ではなく、業界標準のOPC-UAインターフェイスの採用であったが、それでもセキュリティ仕様書に準ずるには、検討しなければならない事項がいくつかあり、それを規定した。独自インターフェイスの場合は、そのあたりを本当にベンダーに任せて運用できるのか。また、仕様書に準ずるセキュリティ設計となっているのか/いないのかを見ていく機関・機能がない現状では、仕様書で謳っていかなくてはならないが、十分な内容になっているのか。プラットフォームの運用管理だけでセキュリティを担保しなければならない形にならないか心配だ。その点はいかがお考えか。（高井委員）

➤標準インターフェイスは基本仕様書に定めがあるところと、独自インターフェイスの場合のセキュリティはどうかについて、標準仕様書を定めた当初から特に変わっていない。独自インターフェイスの整理をするにあたって、セキュリティ要件は現時点としてどうあるべきかという問題提起だと受けとめ、ここを含めた議論が今後また必要であると認識した。（研究会事務局）

➤独自インターフェイスの場合は当面は、独自なのでそれぞれのベンダーの責任である。そこをクリアするためには将来的には標準インターフェイスに移行してもらうということが一番大切である。（石井委員長）

➤研究会会長という立場でお話させていただきます。生島委員、高井委員のご指摘は非常に大事なことである。10年前にこの仕様書を作ったときは情報利活用ということでやらせていただいた。実態としては事務局からも説明があったように、コストカット、広域連携、いろんな形で使っていただいている。またセキュリティの問題も非常に大きいと認識している。これまで10年前に作った仕様書を普及させるという形で進めてきたが、前回、前々回の委員会で皆さまからのご指摘を聞いて、時代に合った仕様書に改訂しなければいけないという認識を持っている。今日、事務局から、監視制御とマッピングの2つのSIGを新たに立てると報告があった。まだ研究会では決まっていないが、こういった新しいSIGでもご指示いただいたことを再検討して仕様書自体、情報利活用だけではないセキュリティも含めて、またご相談もできるような形、そういったことを包含するような形をもって研究会で議論していきたいと思う。今日のご指摘は非常にありがたいとともに、研究会としても頑張ら

なければいけないので、事務局のほうもよろしく願いいたします。（新副委員長・研究会会長）

➤委員の皆さまのご指摘等々を受けて、研究会でさらに詳細を検討し進めていく。その際また委員の皆さまから、また構成員の皆さまからもご支援ご協力を賜る場面が多々あると思うのでその際はお願い申し上げます。（石井委員長）

➤先ほどの議論はすごく大事だと思っており、セキュリティの脅威が昨今高まっている。ますます高度化しているのでセキュリティについてもSIGのような場で皆さまに議論いただきたい。資料8 p.9の利用状況について、こちらで定期的に取りまとめられて公開されていくという説明があったが、公開の頻度や公開の場所についてご検討があれば教えていただきたい。広く関係者の皆さまの関心が高まっているところで、公開の目的が現状の正しい共有という意図であれば広く皆さまが見られる場にあるといいと思う。事業者の皆さまが気になるポイントは、研究会事務局が口頭で補足されていたように、どれだけの現場数があり、その中のどれくらいの割合が標準インターフェイスなんだというところだろう。これも図としてあると、使いたい形でデータ入手できるということで良いのではないかと思う。アプリの種類ベースというのもあってもいい。そういったところで、頻度や公開場所について現状の検討があれば教えていただきたい。（情報処理推進機構 佐藤オブザーバー）

➤独自インターフェイス、標準インターフェイスの区分を含めた導入実績について、導入数についてはプラットフォームであるJECCから提供されたデータを元に集計したものであるため、情報開示の範囲はJECCと連携しながら検討する必要がある。現状の報告対象については、このような形で審査委員会には10月と3月に報告し、研究会では経産省、国交省、IPAと毎月四者会議と称し情報連携の会議をしている。四者会議の場では、随時導入件数の推移をリアルタイムで報告している。公表する導入件数については月次でというよりは、四半期ごとのスパンで集計更新を考えている。（研究会事務局）

➤公益的なプラットフォームの役割を求められていくのが水道情報活用システムだと思うので、冒頭のご挨拶のお話であったプロアクティブな開示を今後色々一緒に検討させていただければと思う。（情報処理推進機構 佐藤オブザーバー）

➤重要インフラの情報セキュリティについては国の政策も変わり、IPAでJC-STARという認定制度を始めると聞いているので、ぜひこの研究会も協力しながら進めていきたいと思うので、IPAからの情報提供、意見交換を引き続きお願いしたい。（新副

委員長・研究会会長)

➤独自インターフェイスの導入の一例として予算に限りがあるというお話は聞いている。その克服というところである。どのように標準インターフェイスに持っていきけるのか、というのは厳しい部分もあるが研究会で引き続き検討していただき、少しでも進むようにお願いしたい。(大分市上下水道局)

➤国交省のIoT予算は令和7年度も続くのか。(石井委員長)

➤令和7年度は続くが、それ以降は現在検討中である。(国土交通省水道事業課 吉川オブザーバー)

➤まだまだ独自インターフェイス、標準インターフェイスの議論がつきないなど感じる。独自だ標準だという話よりも、標準にするとどんなメリットがあるのかと改めて示すことで事業者が独自インターフェイスを導入しようとする意欲を掻き立て、ベンダー側も改めて開発をしなければならないなどというところを感じさせないと、なかなか皆さんが一致してこうするわけにはいかないのかなと思う。この度国交省から水道分野における情報セキュリティ確保に係る安全ガイドラインも示されたので、安全面や法律面、さまざまな面できちんと規格をしたうえで皆さんが納得したうえで使用できる環境作りが必要だと感じている。(メタウォーター 永井委員)

➤国の方でも要望を受けて今後色々な検討会があるので、我々も色々提案していきたい。(石井委員長)

➤標準プラットフォームに移行という話は昔からやっているが、なかなかそこまでいかない。永井委員が言ったように標準プラットフォームに移行したらこういうメリットがあるんだとしっかり知らせていくことが大事である。皆さんのご協力をお願いしたい。(日本水道協会 本荘谷委員)

➤メリットをもう少し色々な角度から説明できるようなデータも含めて示していかなければならない。(石井委員長)

➤DXの導入については国交省でも今検討されていると聞くが、簡易水道では職員にあまり知識がなく、必要だと思っても導入の仕方が分からなかったりするので、サポート体制も検討していただきたいと思う。(全国簡易水道協議会 小平委員)

➤サポート体制の充実とのご提案をいただいたので、全体を通じた観点からさらに進められるように頑張っていきたい。（石井委員長）

➤今日の各委員からのご意見ご提案を、事務局、新会長、研究会役員も兼ねているので様々な観点からご教示をいただく形で進めていきたい。来年度も審査委員会が2回予定されているので、そこでさらにご提案を申し上げて、そしてまた機能的にビットにというご提案もあったので、弾力的にスピーディーに皆様に示していきたい。検討しながら同時並行的に進めていきたい。基本的なところも受け止めながら改訂要求案も出てきたので、本日はそういったところも含めながら全体を承認することによってよろしいか。細かいところのご意見ご要望を踏まえながら進めていきたい。（石井委員長）

● 改定要求書（CR）の審査結果：

その後、出席委員からの異議はなく、承認された。

但し、独自インターフェイスの取扱いに関する運用についての改訂は、研究会にて再度検討されることとなった。

4. その他（標準仕様研究会からの連絡事項）

☆ 資料9に基づき、研究会事務局が説明を行った。

添付資料

資料1 令和6年度 水道情報活用システム標準仕様審査委員会(第1回)議事録(案)

資料2 標準仕様書の改定審議依頼書

資料3 改定要求書(CR)

資料4 別紙1-1 水道情報活用システム 基本仕様書 WPSC001 Ed.1.5

資料5 別紙1-2 水道情報活用システム 基本仕様書 別冊 機器ベンダー向け標準インターフェイス(デバイス)仕様書 WPSC003 Ed.1.3

資料6 別紙1-3 水道情報活用システム 標準仕様書 別冊 水道標準プラットフォーム外部仕様書 WPSC005 Ed.1.6

資料7 別紙2 水道情報活用システム標準仕様書 改定(案)抜粋

資料8 別紙3 標準仕様書改訂案の概要について

資料9 一般社団法人水道情報活用システム標準仕様研究会の活動概況について

以 上